

令和6年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標設定
中間評価（9月末実績）
年度末確定評価

さきたま史跡の博物館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト（自己点検表）

II 目標や方針の設定

- 1 中期的な目標や方針及びそれに関する取組の設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組の概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

- 1 埼玉古墳群の調査を進め、史跡整備を継続、推進するとともに、金錯銘鉄剣など貴重な文化財を将来にわたり確実に保存、管理し、その活用を図る。
- 2 古墳公園を安心して利用いただけるよう維持・管理し、快適な史跡空間として提供していく。
- 3 埼玉古墳群をはじめ県内の史跡や遺跡、考古資料の総合的な博物館として、関係資料の収集、保管、調査、研究を進め、関係機関と連携し、その成果を企画展や講演会等で公開する。
- 4 埼玉古墳群や館有資料などを生涯学習や学校教育において広く活用する事業を積極的に展開する。

2 現状分析と課題の抽出

- 1 調査及び史跡整備は基本計画に基づき実施しているが、予算の制約があることから今後、計画の見直し(工事期間の延長等)が必要になる可能性がある。国宝展示ケースは令和6年度に納品されたが、有害物質の発生等、細心の注意が必要である。
- 2 予算上の制約のため、適切な草刈り等の園地管理が困難な状況にある。
- 3 資料保管に関して、収蔵庫の空きスペースがなく、文化財収蔵施設に分散収蔵しており、適切な管理が難しい状況にある。関係機関との連携については古代歴史文化協議会や行田市等と展示、研究で積極的に実施している。
- 4 従来からの出張授業等に加え、中・高生向けのキャリア教育関連事業を展開し始めた。課題は、これら小中高生向けの事業には多くの申し込みがあるが、会場や資料の関係上、参加人数を絞り込まざるを得ない点である。

II 目標や取組の設定

1 中期的な目標や方針及びそれに関する取組の設定

【中期重点目標】

(No.) (目標)

- (1) 古墳公園の適切な管理 令和5～7年度
- (2) 調査・研究方針の策定 令和5～7年度
- (3) 博学連携の取組についての学校向け情報発信 令和5～7年度

【取組】

- (1) 移築民家の今後の在り方検討。防犯カメラ等の予算要求。
- (2) 古代歴史文化協議会研究テーマや発掘調査等の調査・研究・成果公開の事業サイクルの構築
- (3) ネット活用、他機関との連携による学校向け情報発信

I-3 チェックリスト(自己点検表)

さきたま史跡の博物館

(1) 全館共通項目

		達成基準	
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	3	
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	2	収集しているが、未整理のものがある
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	2	文化財収蔵施設に分散収納のため点検等取組不十分
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	2	金属製品の保存処理の取組不十分
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	2	直近の発掘資料が未公開
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	3	
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3	
	② 常設展示は定期的に更新しているか。	3	
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	3	
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3	参加申し込み方法で電子申請と往復はがき併用
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	各イベント、館共通、企画展時の3種アンケートあり
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

項目	チェック内容			課題等
情報発信	①	SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	
県民との協働・地域連	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	3	
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	3	
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	3	
	⑥	展示室内の安全性の確保(監視員の配置・監視カメラの設置等)に努めているか。	3	
施設の活用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 さきたま史跡の博物館

(2)館別独自項目

		達成基準	
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取り組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
史跡 施設 整備 と 活用 事業 の実 施	① 外部からの指導・助言のもと、全体的な整備計画を策定し、かつ状況の変化に応じて適宜見直しを図っているか。	3	
	② 史跡整備関連の研修参加や整備事例の視察を行っているか	2	予算制約あり
	③ 発掘調査成果を現地見学会や講座、SNS等で公開しているか	3	
	④ 史跡や整備に関する講座・講演会を行っているか	3	
公園 整備 と 活用	① 全体的な整備計画の策定に関与しているか	3	今後の公園拡張計画が不透明
	② 外部に公園の利・活用を呼び掛けているか	2	使用料が発生するため、積極的な呼びかけできず
	③ 公園利用についての諸規定があるか	3	
考古 学 の 実 施 事 業	① 各年代向けのバラエティに富んだ体験事業を行っているか	3	
	② 外部からの出張事業の要請に応えているか	3	
	③ 他館の事例収集やアンケート結果分析を通して、適宜事業の企画・検証・改善を図っているか	3	
企画 展 示 事 業 の 実 施	① 考古の専門館としての企画展を計画・実施しているか。	3	
	② 展示関連の講座・講演会を開催しているか。	3	
	③ アンケートを実施して、参加者の意向を把握しているか。	3	企画展専用のアンケートを実施
関係 機 関 と の 連 携	① 行田市ほか地域団体との連絡調整・連携事業を実施しているか	3	
	② 考古学関係団体や他機関との共催事業を実施しているか	3	
	③ 埼博連等、博物館団体との連絡調整・連携事業を実施しているか	3	

施設名 さきたま史跡の博物館

Ⅱ－２ 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1－6 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	98,000	人	108%	教育振興基本計画目標数値
				105,586	人		入館者＋アウトリーチ参加者＋SNSリアクション等
2	使命2 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	83,100	人	104%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				89,140	人		
3	使命1－6 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	310	人	108%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				335	人		
4	使命2・3 情報発信・活用	デジタル情報の利用状況	HPアクセス数	1,152,000	件	168%	R5度実績(平均値は536,253)
				1,935,756	件		
5	使命2 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	40	件	130.0%	5か年の最高値、最低値除く平均値32
				52	件		
6	使命2・6 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	9,210,000	円	114%	予算金額(特別利用・観覧料・物販)
				10,544,920	円		

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1 史跡活用	史跡整備 成果公開	シンポジウム・ ガイドツアー等 参加者	290	人	307%	5か年の最高値、最低値除く平均値288人
				890	人		(シンポジウム、特別講演会、現地説明会)
2	使命3 展示	観覧者	企画展・テーマ 展の観覧者数	36,100	人	108%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				38,999	人		
3	使命3 学校連携	出張授業	出張授業の実 施校数	40	校	153%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				61	校		中期重点③（授業＋出張まが玉等体験）
4	使命1～3 学校連携	団体利用	学校団体の利 用校数	160	校	88%	5か年の最高値、最低値除く平均値
				141	校		中期重点③
5	使命1 資料保存	IPM	年間のIPM回 数	8	回	125%	昨年度実績値（R4以前は資料点数）
				10	回		
6	使命1・3 展示	アンケート	アンケートでの 常設展示満足 度	80	%	113%	80%の定性値
				90	%		
7	使命1・3 講座	アンケート	アンケートでの 講座等受講者 満足度	80	%	108%	80%の定性値
				87	%		
8	使命1～3)	情報発信	X(旧ツイッ ター)によるイ ベント告知等	270	回	136%	R5実績270回（R3以前Xによる告知なしのため）
				368	回		X、HP、LINEの3種類

※ 利用者数＝常設展観覧者数＋無料入館者数＋アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数＝特別展・企画展観覧者数＋常設展のみの観覧者数
※ 基準値：過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値：基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値：目標参考値の1の位を繰り上げた数値 ※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

3 取り組みの概要

施設名 さきたま史跡の博物館

【中間時】

※9月末現在

・利用者数等

年間目標値の50%以上で順調

・広報関係

ホームページアクセス数はほぼ前年度の年間閲覧数に到達。メディア掲載数を順調

・史跡活用

ガイドツアー等、好評

・企画展等

スペシャルテーマ展「埼玉古墳群と日本遺産」、埼玉の考古おひろめ展「地中からのメッセージ」終了

・体験学習等

「古代人に変身」「火おこしに挑戦!」「学芸員の仕事にチャレンジ!」「オリジナル埴輪を作ろう」「中高生のための博物館仕事体験」等開催

・出張授業等

「なるほど!古墳時代」等44校終了

・各アンケート

いずれも満足度は目標値を上回る。

【最終】

※最終数値等の実績は館報に詳細記入

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

○今年度は昨年度下半期の工事休館明けの再開館であった。国宝「金錯銘鉄剣」展示ケース更新に伴い今年度は通年レプリカ展示であることから当初は入館者減の可能性もあったが、企画展等が盛況であったため数値目標については、計14の項目のうち、13項目は目標を達成した。

○令和6年度の特記事項

- ・「金錯銘鉄剣」展示ケースの製作・設置(年度末)
- ・愛宕山古墳の発掘調査説明会の盛況(603人)
- ・オンライン授業の増加(R5度4校→R6度9校)
- ・SNSを活用した情報発信の強化(X投稿368回)

○その他

- ・令和7年度から国庫補助事業で防犯カメラの設置が決定

○評価まとめ

工事休館明けであり、概ね当初予定プラスαの事業展開を行うことができた。各種数値目標も概ね達成した。

(2) 課題と対応の方向

○「古墳公園の適切な管理」

- ・クビアカツヤカミキリの増殖により公園内の桜の状況が極めて悪化。
→民間会社等の協力を得ながら、予防措置を講じていく。
- ・公園内除草
→予算要求が認められず、適切な回数の除草ができない。安全・快適な公園の維持のためにも引き続き関係機関と連絡を密(予算要望等)にしていく。
- ・史跡整備の計画的な進捗
→文化庁・文化財・博物館課との連絡を密にし、予算規模に応じ年次計画を柔軟に変更し対応する。

○「移築民家の今後のあり方検討」

移築民家は耐震診断費や屋根の吹き替え費等、各種参考見積等を取った。引き続き関係機関を交えて在り方の検討を行う。

2 外部評価委員等によるコメント

- ・少ない職員の中、多くの事業展開を行っており、すばらしい。
- ・近隣に居住しているがやはり草は気になる。除草が行き届いたきれいな古墳公園にしていきたい。
- ・出張授業は地域の小学校にとって大変魅力的であり、是非精力的に進めていただきたい。
- ・ボランティア活動も地域との連携として評価できる。
- ・移築民家は、さまざまな意見を聞いて今後の在り方を慎重にきめていただきたい。
- ・猛暑対策としては、古墳公園は四阿が適所に配置しているが、園内放送等で熱中症への注意喚起等を行うことを検討していただきたい。
- ・資料のデジタルアーカイブ化については、時代の要請もあり計画的に実施していただきたい。
- ・企画展示室での年4回の展示は、働き方改革が叫ばれている昨今、職員にとって荷重ではないか。メリハリをつけて省力化を検討していただきたい。
- ・クビアカツヤカミキリ被害については各地で深刻である。史跡や天然記念物等、文化財にかかる樹木だけとってみても多くの市町村が対応に苦慮していることから、県庁のほうで全県的な情報共有の場や対策の検討をしていただきたい。